

SCOPが全国医学生CPR選手権大会で連続優勝

SCOP顧問 クリニカルスキルアップセンター センター長 かりの けんじ 狩野 賢二

本学医学部学生サークルSCOPは2012年に誕生しました。Skill Conquest and Output Programの略で、医学生が自ら医療手技を学び他者へ伝えるプログラムを実践しています。SCOPの活動の一つにBLS(一次救命処置)の取り組みがあります。BLSは胸骨圧迫と人工呼吸からなる心肺蘇生法で、院内BLSとして毎月開催している研修会でSCOPのメンバーが指導者をすることもあります。このSCOPが日頃の練習の成果を発揮する場を選んだのが、日本救急医学会が主催する全国医学生CPR選手権でした。全国の医学部学生の心肺蘇生技能向上を目的に開催されています。2015年の第1回大会は成人CPRで1位を取り、2016年の第2回大会では乳児CPR部門で驚異的な高得点を挙げて総合優勝を果たしました。更に2017年の第3回大会でも総合優勝を果たしました。手技の判定は、日本救急医学会の医師による厳しい評価と、胸骨圧迫の深度と速度や人工呼吸の換気量をセンサーで計測するシステムが搭載されたレサシアンQCPRによる客観的な点数の両方で審査されます。このような厳正な審査の中でSCOPが好成績を上げ続けているのは、参加メンバーの猛烈な練習成果であることは間違いありませんが、参加経験のある先輩が後輩をしっかりと指導している効果も大きく影響しています。また、卒業生の初期・後期研修医もBLSに限らず多くのことを在学学生に伝えに来ています。このような医療手技を自ら学び他者へ伝えるSCOPの活動が本学医学部の素晴らしい伝統となっています。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

1月15日～2月14日

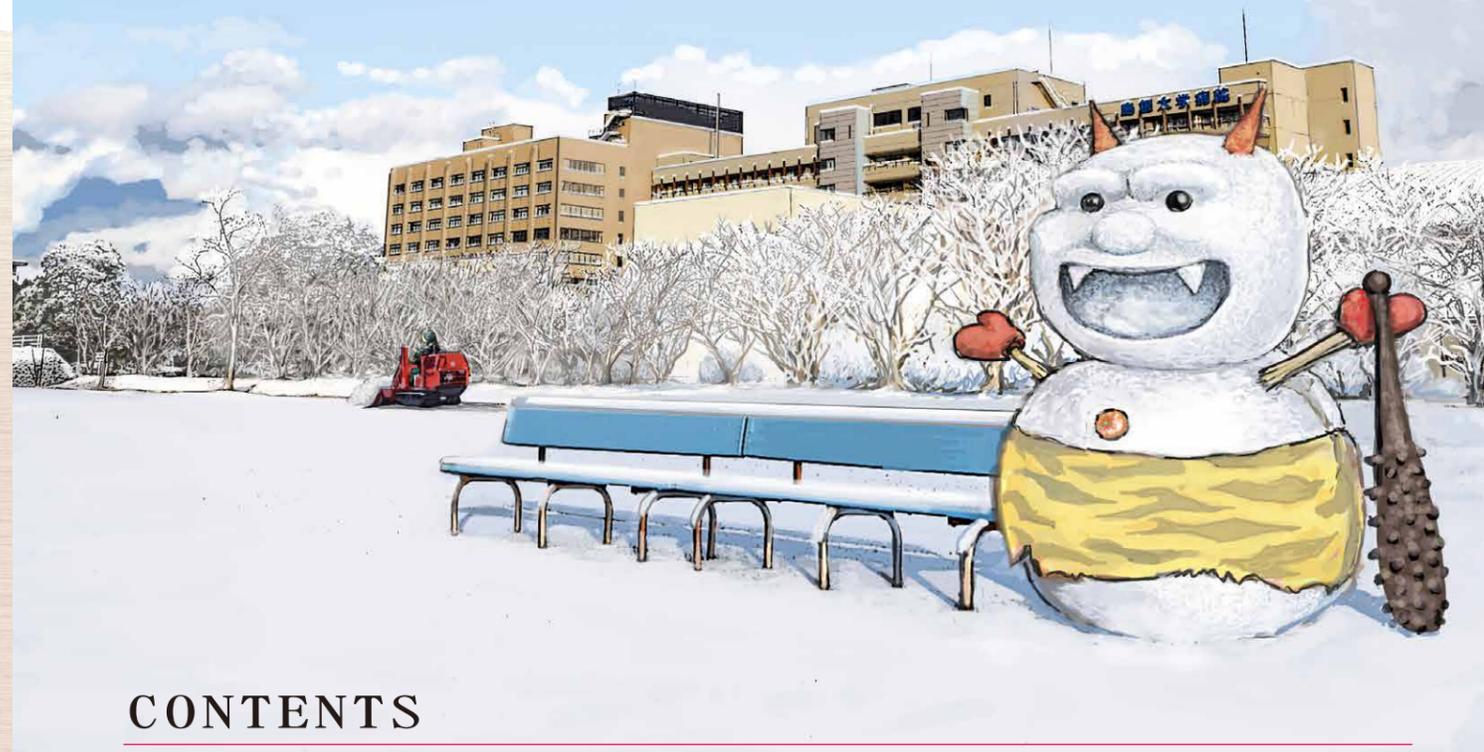
対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
2/15(木)	9:30～11:30	平成29年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来・中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院
2/17(土)	13:00～15:30	がんになっても人生百歳を応援しよう! どんな暮らしをしたいですか?～その実現のために～	医学部看護学科棟6階 第4実習室	医療 本学	島根大学医学部看護学科と島根大学医学部附属病院看護部との連携・協働によるがん看護実践者育成プロジェクト
2/17(土)	14:00～16:00	市民公開講座 知っておきたい眼の病気 ～緑内障と目の腫瘍～	医学部看護学科棟1階 N11講義室	一般	島根大学医学部 眼科学講座
2/27(火)	18:30～19:30	臨床研究・統計セミナー	外来・中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	医療 本学	島根大学病院 臨床研究センター
3/6(火)	18:00～19:00	看護師のためのがん診療セミナー	B病棟4階カンファレンスルーム	医療	先端がん治療センター、 腫瘍・血液内科
3/7(水)	18:30～19:30	臨床研究・統計セミナー	医学部講義棟3階 L3講義室	医療 本学	島根大学病院 臨床研究センター
3/9(金)	15:00～16:00	誰でも参加出来る糖尿病教室	外来・中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院 糖尿病ケアサポートチーム

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- 明日の医療を島根から創造する!
これまでにない骨折治療支援システム開発
～「ホネ」で骨折を治す!? 金属材料を使わない骨折治療～
- 災害医療・危機管理センターを設置しました
- SCOPが全国医学生CPR選手権大会で連続優勝
- 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報



明日の医療を島根から創造する!

これまでにない骨折治療支援システム開発

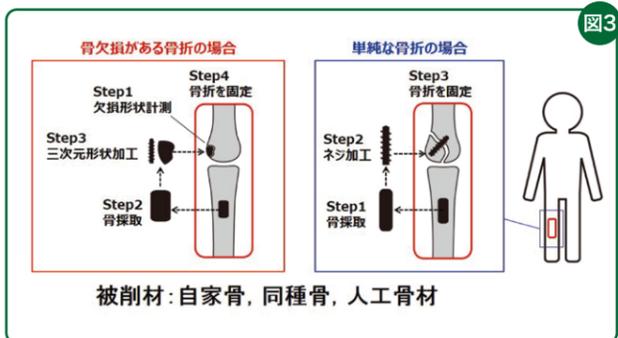
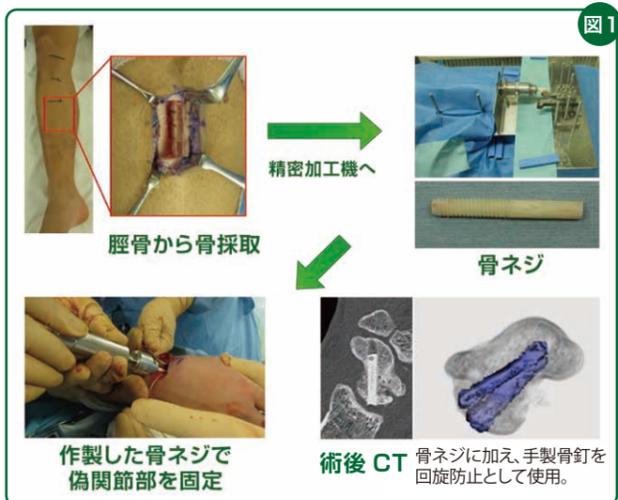
～「ホネ」で骨折を治す!? 金属材を使わない骨折治療～

整形外科 教授 うちお ゆうじ 内尾 祐司
 助教 いまだ しんじ 今出 真司

私たちは2004年から「骨ネジ」による骨折治療の開発を行ってきました。これは手術中に「ホネ」から「ネジ」を作製し骨接合を行う技術です。具体的には、骨折患者さん自身の骨を一部採取し、手術室で使用可能なネジ作製機を用いてこれをネジに加工します。こうして作製された「骨ネジ」を用いて骨折部を固定します。これまでに12例へ実施し、概ね良好な治療成績を得ています(図1)。

一方で臨床応用経験を通じ新たな課題がわかってきました。現在使用している加工機は工業用旋盤を医療用へ改良したもので、安全性や使い易さに難点がありました。そこで、医療応用を前提とした実用性の高い新設計の加工機開発を開始しました。本研究の黎明期から共同研究を行ってきた島根県産業技術センターに加え、県内企業であるヒカワ精工株式会社およびその親会社である株式会社日進製作所(京丹後市)と共に、新型骨加工専用複合加工機の開発計画をスタートし、2017年9月には試作機が完成しました(図2)。同11月には試作機を臨床応用可能な仕様へ改良することを目的に四者間で共同研究契約を締結しました。

新型加工機では、ネジ加工だけでなく3次元加工もできます。様々な加工を行うことで、より幅広い症例への対応が可能となります(図3)。私たちは、宮大工が木組みの技術で神社仏閣を建立するように、「ホネ」で骨折を治す、これまでにない全く新しい骨折治療技術の確立を目指し、これからも研究を続けていきます。



災害医療・危機管理センターを設置しました

災害医療・危機管理センター センター長 わたなべ ひろあき 渡部 広明

当院では、近年の災害発生頻度の増加に伴い、災害医療を組織的に展開するための部署として、「災害医療・危機管理センター」(高度外傷センター棟内)を設置いたしました。当センターの目的は、災害医療と院内緊急事態時の対応を迅速かつ的確に実施し、現場の混乱を引き起こすことなく適正な医療を展開することにあります。本目的を達成するためにセンターの担うべき機能として、①災害発生時の指揮とマニュアル業務の遂行、②平時の災害対策、③災害対策教育(災害対策訓練)の実施、④院内災害対策マニュアルの管理と改訂の4つを挙げ、これを遂行するための4つのユニットを設置しました。当センターは災害医療の専門医を中心に以下のユニット、(1)災害時診療対策ユニット、(2)緊急被ばく医療専門ユニット、(3)災害時施設対策ユニット、(4)外部調整ユニット、で構成されます。

災害時診療対策ユニットは、災害および院内緊急事態時に診療全般を指揮するユニットです。DMAT や小児周産期リエゾンの調整、院内診療チーム、NBC 災害テロ対策チームの統括を行います。緊急被ばく医療専門ユニットは、原子力災害を担当するユニットです。当院は、原子力災害拠点病院に認定されており、島根県で発生した原子力災害医療の中心的役割を期待される施設であることから緊急被ばく医療にも力を入れています。東京オリンピックに向けて我が国でもテロの発生が危惧されており、人の集まる観光地である島根県はテロの対象となり得ます。NBC テロ災害に対しては、災害時診療対策ユニットと連携し、NBC 災害の訓練を受けた専門医を配置し対応します。災害時施設対策ユニットは、災害時の院内設備の管理・統制と院内の災害訓練の企画・立案を行います。近隣で発生した大規模災害時には最大多数の傷病者を収容することができるよう収容スペースの確保を行います。外部調整ユニットは、災害発生時の地方公共団体(市、県)、国等との連携調整を図る部門で、当センターの事務機能の中核です。専門の災害対策事務職員を配置して対応します。

政府中央防災会議防災対策推進検討会議により近い将来発生すると想定されている南海トラフ地震では、太平洋岸を中心に壊滅的物的・人的被害をもたらすとされています。本巨大地震発生時には被災地外である当院は最大限の患者さんを受け入れ対応できる準備を進めていくことが求められています。また、島根県においても甚大な災害(地震、豪雨、大規模事故など)が起こらないとは言いきれません。あらゆる緊急事態に備え、災害時の医療が展開できる体制を目指し整備して参ります。





ご報告



ハンズフリーLEDライト出荷式(島根富士通本社工場)

左から、島根大学産学連携センター 中村 守彦、Doライト(株) 影山和夫 代表取締役、(株)島根富士通 神門 明 代表取締役

ハンズフリーLEDライト

「ハンズフリーLEDライト」製造・販売へ!!

なかむら もりひろ
産学連携センター 教授 中村 守彦

このたび、本学、Doライト(株)及び(株)島根富士通との共同研究により開発した、看護師が夜間病室で使用する「ハンズフリーLEDライト」(以下「LEDライト」)をDoライト(株)が製造・販売する運びとなりました。この研究開発は、当院のベテラン看護師による「看護用ライト」の具体的な提案から始まりました。

入院患者さん及び看護師双方に「やさしい」本LEDライトの活用により、安心・安全な看護の提供が期待できます。

■本LEDライトは次の特徴を有しています。

- ① 耳掛け式を採用し、患者さん対応で両手が塞がった状態においても、体勢制御によりハンズフリーでスイッチON操作が可能。
- ② 誤動作回避機能を装備。
- ③ 患者さんに光ストレス負荷を与えないフェード機能を持ち、光質(自然光、ソフト光)や照射エリア(口腔内から全身)の変更も可能。
- ④ 超軽量化(37g)を実現。

本LEDライトは、看護以外の医療への活用も見込めるイノベーションであり、関連技術は国内外へ特許出願済みです。また、この取組みは、出雲市の「医工連携支援事業」と協働して進めています。

関連特許 特願 2016-008441 (国内特許)、PCT/JP2017/001442 (国際特許)



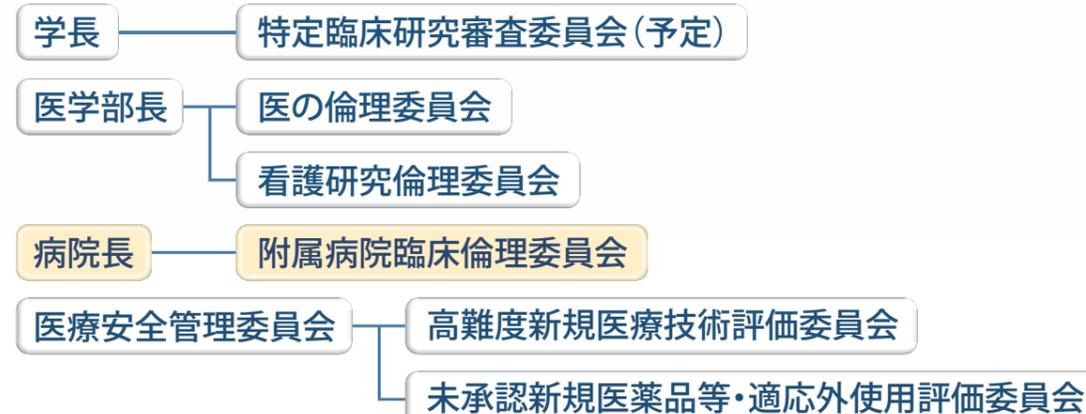
お知らせ

島大病院では臨床倫理委員会を開設しました

副病院長(安全管理担当) もりた えいしん
森田 栄伸

近年、終末期医療や臓器提供に関して倫理的な関心が高まっています。当院では、臨床研究以外の医療行為に関して、法令遵守及び倫理的観点から、その妥当性を審議する島根大学医学部附属病院臨床倫理委員会を設置しました。この委員会では、(1) 終末期医療や宗教的理由による輸血拒否など、患者さんの診療上の意思決定・治療選択に関すること、(2) 臓器移植及び脳死判定に関すること、(3) 遺伝子診断に関すること、(4) 生殖補助医療及び胎児出生前診断に関すること、(5) 児童虐待に関すること、などを審議いたします。この委員会は、副病院長2名(安全管理担当及び職場環境改善・看護の質管理担当)、内科系診療科長2名、外科系診療科長2名、薬剤部長、事務部長、人文科学・生命倫理の専門家1名以上、一般の立場の者1名以上、病院長が必要と認めた者などで構成され、男女それぞれ2名以上の委員を含むこととしています。審議事項についての結論は、原則出席委員全員の合意によりますが、緊急を要する場合には迅速協議を行い、この場合は出席委員の3分の2以上の合意にて協議結果とします。臨床研究以外の医療行為の倫理的妥当性は臨床倫理委員会で、人を対象とする臨床研究は医の倫理委員会及び看護研究倫理委員会で、高難度新規医療技術の提供に関する倫理的及び科学的妥当性については高難度新規医療技術評価委員会で、未承認新規医薬品の使用及び適応外使用については未承認新規医薬品等・適応外使用評価委員会で審議し、この委員会の設置により、審議する体制が整いました(下図参照)。

島根大学医学部における倫理問題の審議体制





島大病院ニュース 2018年2月

ご報告



子どもにやさしい医療環境を支援する チャイルドライフスペシャリスト

チャイルドライフスペシャリスト くろさき 黒崎 あかね

チャイルドライフスペシャリスト (CLS) は、医療に関わる子どもの心理社会的支援を提供する専門職です。CLSの活動は、1920年ごろ北米で始まりました。現在27か国でCLSが活躍し、日本においても、2017年11月現在、29の施設で46名のCLSが活動しています。

CLSの役割は、1. 治療的遊び(気晴らし遊び)、2. 心理的・社会的支援、3. プレパレーション(こころの準備)、4. 検査・処置中の支援、5. 病院への適応支援、6. 危機的状況やグリーフ支援に分類できます。それぞれの子どもの発達段階を考慮し、子どもたちが主体性を持って、疾患や治療を理解し、乗り越えられるように医療チームで連携しています。例えば、採血前に、子どもが採血について何を知っているか情報収集し、その子の理解度やストレス反応に合わせた介入を行い、じっとしていることが大切だと理解してもらいます。次に何をされるのか、自分は何をすればいいのかがわかることで子どもの恐怖心は軽減され、医療者に対する不信感も減らすことができます。怖い体験をした子どもに対しては、遊びを通して、ストレス発散や自己肯定感を強化し、がんばる力を引きだせるように援助します。また、きょうだいを含む家族の不安やストレスもアセスメントし、必要なサポートを計画・介入を行なっています。

CLSは子どもの心理社会的ニーズに応えるために活動しますので、子どもの検査、治療、入院などでお悩みがあれば、気兼ねなくご相談ください。

問合せ先 小児センター病棟 TEL:0853-20-2616



平成30年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年2月

お知らせ



市民ギャラリー展示 「出雲地方の風景写真」をお楽しみください

市民ギャラリーでは、斐川町在住のアマチュア写真家田中作夫氏の「出雲地方の風景写真」9点を1月から2月末まで展示しています。

田中氏はこれまで「県展」、「雲いづる神話の國出雲フォトコンテスト」、「しまねの農村景観フォトコンテスト」などに出品され、多数の入賞歴を持つ実力ある写真家です。

最近の活動では、荒神谷博物館などで写真展を開催、2018年NHKワールドカレンダーフォトコンテストでも入賞され、今年の公式カレンダーに選ばれました。

宍道湖の四季折々の表情、立久恵峡の紅葉など、刻々と移り変わる風景の中に、いつまでも変わらない出雲地方の美しさをあらためて知ることができます。

ぜひご観賞ください。

当院では、引き続き、皆さまからの作品を募集しております。

詳細につきましては、当院のホームページをご覧ください。

(<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/pickup/gallery.html>)

この取り組みを通じて、より一層地域に根ざした病院となるよう努めて参りますので、当院に対するご支援をよろしくお願いいたします。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2018



平成30年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年2月

ご報告



院内移植コーディネーターのパワーアップについて

院内移植コーディネーター 一同

院内移植コーディネーターは、臓器移植に際してドナーや家族の意思を尊重し、その擁護をすることとされています。当院では、平成23年に院内移植コーディネーターを設置し、(1)移植医療に関する知識の普及・啓発、および(2)臓器提供体制の整備、ならびに(3)臓器提供発生時・移植時における関係機関との連絡・調整を円滑に行うことを業務として活動しており、7名の人員で構成していました。

すでに我が国の臓器移植の症例数は500例以上に達し、島根県においても実務的な取り組みが必要となっています。臓器移植は日常的ではないものの、いつ発生するか分からない状況となっており、他県での具体的な経験を踏まえて、主治医やスタッフの支援における初動の対応を、迅速に行うことが望まれています。

今回、当院では、院内移植コーディネーターを5名増員して、時代に対応するための体制を整備することになりました。まだ端緒についたばかりですが、皆様のご協力のほどお願い申し上げます。



ご報告
島大病院ニュース

平成30年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年2月

ご報告



12月3日

環境整備ボランティア活動を行いました

よねはら まさたか
会計課施設管理室 室長 米原 昌隆

当院の環境整備は、各種団体のボランティアの方々にお世話になっています。また、教職員・学生による環境整備も年に数回実施しています。

今回は、12月に実施した2組のボランティア活動の報告をさせていただきます。平成29年12月3日(日)9時~10時の間、看護部職員を中心に井川病院長や教職員も参加し総勢53名により、看護師宿舎周辺から看護師宿舎南側駐車場や大学南門周辺の草木の剪定、除草、清掃活動を行いました。普段はなかなか手の入れにくい区域のため、冬季にもかかわらず多くの草木や蔓があり、作業終了後にはさっぱりとした景観になりました。

また、12月23日(土)9時~11時の間、病院長以下総勢8名の教職員により、臨床研究棟北側・第二研究棟南側のロータリー区域と本部棟東側の樹木の剪定、除草、落葉の集積回収作業を行いました。季節の移行により落葉や草木の伸長があり、相当量の草木や落葉を処分しました。こちらもさっぱりとした景観となりました。

今後も大学・附属病院の美観を維持するボランティア清掃活動にご理解・ご協力よろしくお願い致します



12月23日

ご報告
島大病院ニュース

平成30年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ



JAキャッシュカード(現金引き出しのみ)が利用できるようになりました。

従来より、附属病院内外からJAキャッシュコーナーの設置について要望が寄せられておりましたが、JAしまね出雲地区本部と協議を重ねた結果、12月18日(月)よりA・B病棟2階に設置しております山陰合同銀行のATMの1台を山陰合同銀行とJAで共同利用することが可能となりました。以下の点をご理解のうえ、ご利用願います。

- ① 既設のATMのうち、正面を向いて右側のATMが山陰合同銀行とJAの共通ATMとして利用できます。(正面を向いて左側は従来のとおり、山陰合同銀行専用ATMです。)看板や床表示で確認してください。
- ② 共通ATMでは、JAカードによる引き出しのみ可能です。
入金・振り込み・記帳等は利用できませんので、注意してください。
- ③ ATMの営業時間は次のとおりです。
平日:9:00~18:00
土曜日:9:00~14:00
- ④ 共通ATMでJAカードを利用した場合、ATMの平日の時間内であれば手数料は無料です。
土曜日は手数料をいただきます。

山陰合同銀行専用ATMでJAカードを利用した場合は、有料となりますのでご注意ください。

